

大学地域連携学会 第3回大会報告書

1. 大会期間 2023年10月21日(土) 9:00～15:10
2. 大会会場 日本大学文理学部 本館1階 ラーニングコモンズ
3. 開催形式 対面式(講演のみオンライン配信)
4. 大会行事 記念講演, 講演, ポスターシンポジウム
5. 大会日程
 - 9:00～9:30 総会・開会式
 - 9:30～11:30 ポスター発表・一般研究発表
 - 9:30～10:10 ポスターシンポジウム 各団体発表(各10分)
 - 10:10～10:30 ポスターシンポジウム 4組織による合同議論
 - 10:30～11:30 一般研究発表及び協議
 - 11:30～13:00 ランチブレイク
 - 13:00～13:10 挨拶 林真理子氏(日本大学理事長)
 - 13:10～14:00 記念講演 塩崎恭久氏
(一般財団法人 勁草日本イニシアティブ代表理事・元厚生労働大臣・元内閣官房長官)
『真に』子どもにやさしい国をめざして—社会的養育と大学、地域との連携—
 - 14:10～15:10 講演 大熊由紀子氏(国際医療福祉大学 教授)
「誇り・味方・居場所、そして、認知症～世界で・日本で・世田谷で～」
 - 15:10～15:15 閉会式

6. 大会行事報告

○ポスターシンポジウム

藤平敦(大学地域連携学会副会長)氏のコーディネーターのもと、「大学・高等学校の地域連携事例報告」として4名の報告者が登壇した。田原陽介(青山学院大学)は、「大学における地域連携の実践事例」として青山学院大学コミュニティ人間科学部にて開講されている地域実習科目の内容及び実習先の確保や連携の継続に関する課題等を報告した。また、藤森裕基氏(日本大学文理学部)は、日本大学文理学部の地域連携の取り組み及び2002年から継続している「科学実験・文化フェア」の取り組みを報告した。また、鴨澤小織(日本大学文理学部)氏は、社会福祉学科で開講する「社会福祉フィールドワーク」における学生の学修成果と共に、組織間連携が少ないことを課題として報告した。高等学校における地域連携事例として阿部滉(聖パウロ学園高等学校)氏は、ハンドベル部と地域の連携事業を事例に、人づくり・地域づくり・つながりづくりによる「生徒の学びと活動の好循環」が生じたことを成果として取り上げる一方で、地域が限定的であることを課題として報告した。

報告後は登壇者による合同協議として、藤平氏より各事例の共通事項とそれを漢字1文字で表現することが提案された。登壇者より「地」「繋」「育」「体」が提示され、「地域と連携しながら人材を育てていくこと」そうした「心」を持ち合わせる必要があるかと地域と連携していくことが重要ではないかと投げかけ、ポスターシンポジウムは終了した。

○記念講演

塩崎恭久氏は、児童養護を取り巻く課題を歴史的背景、法整備、制度面、他国間比較から迫っていった。また、児童養護には、「できるだけ早い時期に家庭における養育環境と同様の養育環境で、特定の大人との愛着関係の下で養育されることが、子供の心身の成長や発達には不可欠である」ため、その実現には里親を第一優先に考えることを強調した。その背景には、虐待等の逆境体験を受けた子供が健全に育たなければ、タックスペイヤーではなくタックスイーターになるとの知見が提出されているためである。こうしたタックスペイヤーを輩出するためにも、子供の社会

的養育の必要性を理解し、国、行政、民間、地域で未来の担い手を、タックスペイヤーを育て上げることが必要と述べた。講演終了後は代表質問が行われた。

○講演

大熊由紀子氏は、日本と他国の認知症に対する考え方を概観し、認知症を患う方々を、精神病院や施設に入所させていく日本の取り扱いが特異であることを強調した。欧州では、認知症を患う方々が、「ふつうの家で、ふつうの暮らし」をすることが重要視される。たとえ、自宅ではなくとも、そこでは特別な住居（施設とは呼ばない）において「慣れ親しんだ暮らし」が提供される。大熊氏は、認知症患者を精神病院にて取り扱う日本の制度・対策、考え方では、認知症患者の誇りが傷つけられると述べた。同氏は認知症観の転換を企図し、認知症を体験した委員を取り入れて制定した世田谷区の認知症条例について報告し、認知症の方々には味方がいて、地域の居場所があって、誇り・希望・役割が持てることが重要であることを強調し、講演会を閉じた。

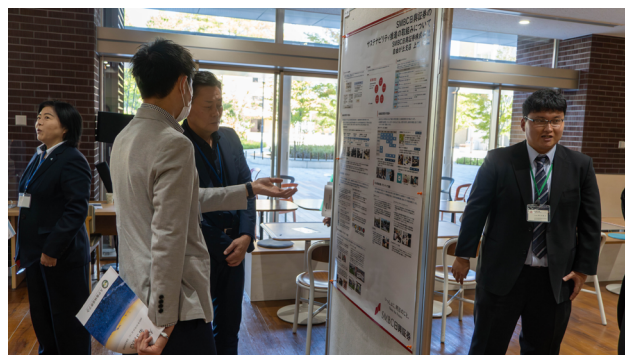
○一般研究発表

研究発表 12 題のポスター発表と共に参加者相互による協議が行われた。

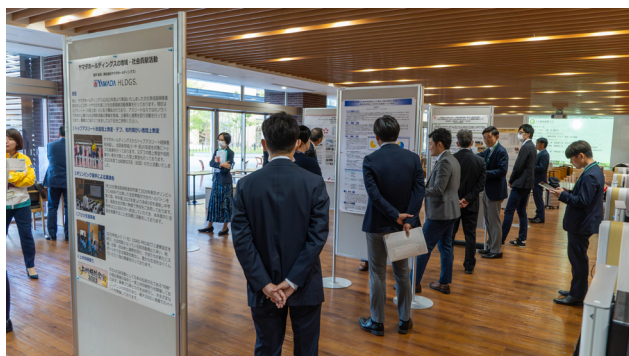
○参加人数	合計	84 名	
	内訳	対面（会員）	34 名
		オンライン（会員）	1 名
		対面（非会員）	24 名
	オンライン（非会員）	25 名	



会長挨拶



研究発表



研究発表



研究発表